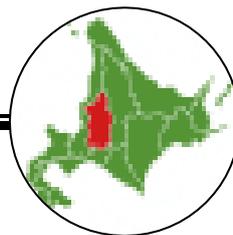


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】



1 栗山町の「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」が「体験の機会の場」に認定

特定非営利活動法人雨煙別学校（夕張郡栗山町、以下、「雨煙別学校」という。）が運営する「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」は、2010年のオープン以来、地元の栗山町や空知管内はもとより、道内そして全国から訪れた2万人以上の人々に自然体験プログラムや環境に関する様々なイベントの場を提供してきました。

このように着実な環境教育の活動を積み重ねてきた雨煙別学校の「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」が、令和3年3月に道内では初めて、全国でも25番目の「体験の機会の場」として認定されました。

今回の認定を受け、雨煙別学校の松原由典理事長は今後の取組について「自然豊かな栗山町の自然環境を活かし、四季折々で体験型の自然環境教育と、里山づくりを進めながら、自然環境教育プログラムを更に充実し、次世代を担う青少年の育成を行っていきたい。」と語っており、これからも「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」における、質の高い環境教育の取組が期待されています。

夏の雨煙別小学校の校舎



水辺の体験学習の様子



スノーシュー探検の様子



2 アライグマ対策広域連携部会の設置

空知管内では、南空知地域を中心に平成9年（1997年）頃から外来種であるアライグマによる農業被害が発生し、管内の市町に拡大していることから、空知総合振興局では、関係者等を対象としたアライグマの捕獲技術研修会を開催し、管内市町の防除計画策定や環境省への申請の認定・更新手続き等について指導・助言を行ってきました。

さらなる対策の強化を目指して、捕獲に関わる法令や道の捕獲事業の取組、管内先進地事例の共有を図るため、令和2年（2020年）10月に空知地域野生鳥獣対策連絡協議会の部会として「アライグマ対策広域連携部会」を設置しました。

令和3年（2021年）2月の第1回部会会議では、管内におけるアライグマによる農業被害、生活環境被害の防止等について、各市町との連携のもと「空知モデル」を構築するため、以下の事項に取り組むことを決定しました。

- ① 捕獲対策の強化（捕獲作業の省力化と捕獲効率の向上、広域連携や一斉捕獲の実施検討）

② 道の調査研究事業の結果・知見の管内への積極的な周知

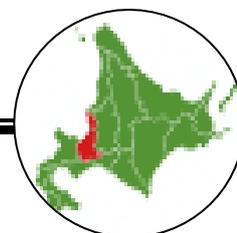
③ 行政担当者、捕獲従事者、農業関係者等の人材育成

部会では、今後もアライグマの防除に関わる多様な組織と連携してアライグマ対策を推進していきます。

■アライグマ対策広域連携部会の部会会議



＝【石 狩】＝



1 支笏湖の湖岸清掃

支笏湖は、日本2位の貯水量と全国有数の優れた水質を誇る最北の不凍湖で、カルデラならではの美しい山々に囲まれた風景や四季折々の景観の変化が特徴的であり、主要都市に近いことから、温泉やチップ（ヒメマス）料理などを楽しむために多くの利用者が訪れます。

この美しい環境を守るとともに、利用者への自然保護の啓発を目的として、毎年、8月の「自然公園クリーンデー」や10月の「道民環境の日」に合わせて湖岸の清掃活動を行っています。

支笏湖温泉街地域の住民の皆様、パークボランティアの皆様をはじめ、環境省、千歳市、石狩振興局等のスタッフが集まり、湖周辺のゴミ拾いや漂着した流木の撤去、排水溝の清掃に汗を流しました。

地域の多くの方々の協力により支笏湖の優れた自然景観や湖水の清澄が守られています。

■湖岸清掃の様子



■流木の撤去の様子



2 ヒグマ対策先進地見学会

石狩振興局では、令和元年に道立自然公園野幌森林公園及びその周辺地域において78年ぶりにヒグマの出没事案が発生し、札幌市南区の住宅街において継続的にヒグマが出没したことなどから、ヒグマ対策の体制整備が急務となったため、令和2年に関係機関が具体的に取り組むべき内容を示した「石狩地域ヒグマ対策アクションプラン」を策定しました。

このアクションプランに基づき、管内の行政機関や狩猟者のスキルアップを図るため、ヒグマの出没が多く恒常的に体制を整えている対策先進地を視察し、出没時の対応や、ヒグマの習性、追跡方法、わなの設置方法などを学び、技術力の向上を図りました。

■講師による説明の様子



■ヒグマによる被害現場



3 アライグマ捕獲技術見学会

管内の鳥獣被害を減少させ、捕獲従事者の労力や精神的負担の軽減を図るため、市町村等の関係機関を対象としたアライグマ捕獲技術見学会を開催しました。

実際の捕獲現場を視察して、箱わなの設置に係る技術指導を受けたほか、農林水産省の鳥獣被害対策アドバイザーからは生態や移動経路の把握方法の解説を、認定鳥獣捕獲等事業者からは捕獲の省力化に繋がる止め刺し技術の指導を受けるなど、捕獲技術力の向上を図りました。

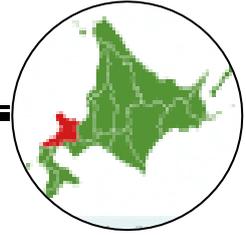
■箱わな設置に係る技術指導



■電気止め差しの技術指導



＝【後 志】



1 環境保全に係る普及啓発活動について

後志総合振興局では、環境月間の普及啓発活動として、令和2年（2020年）6月8日から19日まで、庁舎1階エントランスホールにおいて、のぼりの掲示のほか、普及啓発資材の配布等を実施しました。

また、令和2年（2020年）7月13日に開催された「飲酒運転根絶の日決起大会」においてエコアンドセーフティドライブの普及啓発資材を配布しました。

後志総合振興局では、引き続き、管内の地域環境保全のための取組を推進していきます。

■環境月間の普及啓発の様子



■飲酒運転根絶の日決起大会の様子

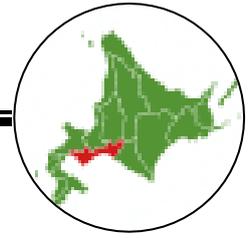


2 動物愛護に関する普及啓発

後志総合振興局では、9月20日から26日の動物愛護週間にあわせて、動物愛護に関するイベントを毎年開催しており、令和2年度（2020年度）は、9月19日から9月28日（※9/23は除く）まで、小樽市の動物愛護ボランティア団体との共催で「動物愛護啓発パネル展」を開催しました。

会場となった小樽市総合博物館には多くの市民が訪れ、動物愛護ボランティアや動物愛護推進員の協力の下、動物愛護に関する啓発のほか、ペットの健康相談や動物愛護ボランティアによる保護猫譲渡の問い合わせの対応などを行いました。

＝【胆 振】



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成20年（2008年）7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを継続するため、様々な取組を行っています。

（1）いぶりガイアナイト2020

「北海道クールアース・デイ」と連携し、平成21年（2009年）からガイアナイトイベントを開催しています。

令和2年度（2020年度）は、10月23日に地球温暖化防止対策の取組のため、各家庭において電気照明を消してローソクの灯りの中で地球環境への思いを巡らせてもらう「ステイホームガイアナイト」を実施し、地域コミュニティFM（FMびゅう）を活用した呼びかけや、むろらん広域センタービルにおいてパネル展示を行いエコキャンドルを配布しました。

併せて、CO₂削減ライトダウンキャンペーンとして、関係機関と連携し、室蘭のシンボルである測量山や白鳥大橋のライトダウンを行いました。

■ステイホームガイアナイト



■測量山のライトダウン



（2）いぶり環境サポーターズネットワーク事業

胆振管内では、身近な自然の復元を目的にビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭」や、室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために清掃活動や子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動を行っている「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」など、各種団体等による様々な環境保全活動が行われており、胆振総合振興局では、これらの団体等が実施する取組へ積極的に参加しています。



■室蘭イタンキ浜清掃活動

2 希少種タンチョウと共存のために

平成23年（2011年）に、北海道の鳥であるタンチョウのペアがむかわ町に飛来して定着して以来、順調に繁殖が繰り返され、道央圏にタンチョウの定着が広がることが期待されています。

そのため、この地域では「むかわタンチョウ見守り隊」が結成され、タンチョウのことを理解してもらい「積極的に見守る」ための活動が続けられています。

■むかわ町に定着したタンチョウ

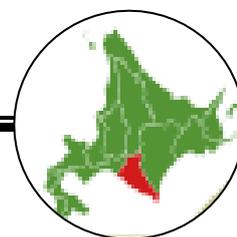


■むかわタンチョウ見守り隊の活動（巣の地上調査）



※巣の地上調査は、専門家の指導の下、タンチョウの家族には影響のない方法で行っています。

＝【日 高】



1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

令和2年度（2020年度）は、7月6日から7月10日までの間、7月7日の北海道クールアース・デイと連携し、地球温暖化防止に係る普及啓発として、「地球温暖化・3R啓発パネル展」を開催し、日高振興局エントランスホール及び管内各町のロビー等においてパネルの展示や啓発物品の配付を行いました。

地球温暖化防止・3R啓発パネル展（パネル展示、啓発物品配付）



2 アポイ岳における高山植物盗掘防止の取組

日高山脈襟裳国定公園の南端に位置するアポイ岳は、標高 810mという低標高ながら、ヒダカソウやエゾコウゾリナをはじめとした希少な固有種が多数みられる花の名山として知られています。

こうした希少な高山植物の不法盗掘を防止するため、毎年5月から6月にかけて振興局をはじめとした関係機関・団体が合同でアポイ岳の合同監視を行うとともに、登山者にリーフレット等を配布する盗掘防止キャンペーンを実施しています。

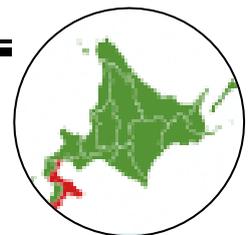
■ヒダカソウ



■エゾコウゾリナ



＝【渡 島】＝



1 大沼の水質改善に向けた取組

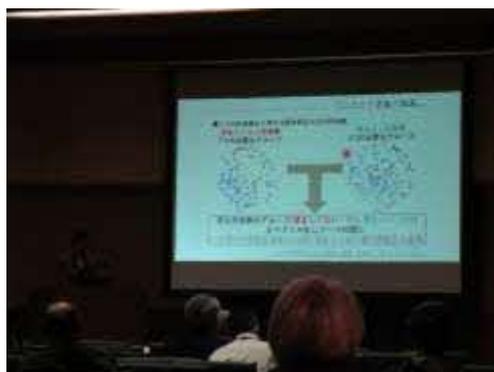
渡島管内の観光名所の一つである大沼は、昭和55年以降、水質環境基準を超過しており、平成7年度に「北海道湖沼環境基本方針」に基づく重点湖沼に指定されました。

このため、渡島総合振興局では毎年、大沼の水質改善に向けた様々な取組を実施しており、令和2年度は、令和2年（2020年）11月6日に大沼国際セミナーハウスにおいて『令和2年度大沼ラムサール協議会×大沼未来会議特別シンポジウム「ワイズユースな基地ができれば～あつまる、まなぶ、つくる、うまれる』』を関係機関との共催により開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、会場の参加者は約30名に限定し、このほかオンラインにより約100名が参加しました。

当日は、地域活性化の拠点としてビジターセンターが果たす役割や、農学教育による様々な課題の解決、学校以外での教育の在り方などについて4名の講師に講演をいただき、大沼の現状や将来像、地域資源活用の重要性などについて、参加者の皆様に理解を深めていただくことが出来ました。

■シンポジウム会場の様子



2 渡島総合振興局3Rパネル展

渡島総合振興局では、毎年10月の「3R推進月間」に、管内の北海道認定リサイクル製品認定事業者及び公益社団法人北海道産業資源循環協会道南支部と協力して、庁内1階道民ホールにおいてパネル展をで実施しています。

令和2年度のパネル展内では、3Rに係るパネル展示のほか、管内の北海道認定リサイクル製品の展示や配架、公益社団法人北海道産業資源循環協会道南支部による不法投棄防止に向けた活動事例の紹介、ミニボックスティッシュ等の啓発資材の配布を行いました。

■パネル展示の様子



3 アライグマ対策の推進

渡島総合振興局管内では、道内の他地域と比較し、まだ特定外来生物アライグマについての目撃情報などは少ない状況ですが、アライグマによる被害が確認された場合は、その生息数はかなり増加し完全な被害等防除が困難になることが多いことから、生息が確認され始めた今こそ、対策に着手する重要な時期といえます。

そのため、令和2年（2020年）9月に、野生動物被害の対応にあたる各市町職員や農業従事者を対象とした「アライグマ捕獲技術等研修会」を初めて開

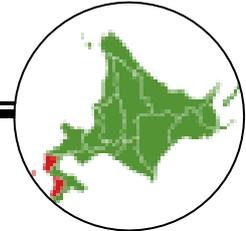


■電気柵の設置、箱ワナの架設方法などの実習風景

催しました。

研修会では、アライグマ研究者などの講師からアライグマの生態や被害の特徴、生息情報の収集方法等について学ぶとともに、野外において農業被害防除のための電気柵の設置方法やわなによる捕獲方法などの実習を行い、早期発見、早期対処の重要性について理解の促進を図りました。

＝【檜 山】



1 ひやまの環境教育

～ひやまりサイクル工作コンクール～

檜山振興局では、平成 10 年度から管内の小学生を対象に「ひやまりサイクル工作コンクール」を開催し、身の回りの不要品を再利用した工作を通じて「物をできるだけ長く大切に使う」、「使わなくなった物は資源に回す」等の 3R に向けた意識を育んでいます。

令和 2 年度（2020 年度）で 23 回目を迎えた同コンクールは、環境教育イベントとして定着しており、管内の多くの小学校から 169 作品の応募がありました。作品は管内 6 カ所の町民文化祭会場等で展示され、子どもから大人まで幅広く御覧いただきました。

■低学年の部 金賞受賞作品



■高学年の部 金賞受賞作品



～冬の森林観察会～

檜山振興局では、毎年、自然の仕組みや野生動植物について、自然体験やクラフト作成等を通じて学習する地域環境学習普及事業を実施しており、令和 3 年 2 月 26 日に振興局の環境生活課、森林室が江差町等と協働して小学生を対象とした「冬の森林観察会」を開催しました。

開催場所の江差町民の森は町中心部から車で 10 分ほどの距離にあり、ミズナラ等の豊かな天然林のほか、江差町の歴史とかがわりが深く、地域で植林に力を入れているヒノキアスナロ（ヒバ）林が整備されており、多様な林相に触れることができます。

参加した 18 名の児童は、スノーシューをはいて、木々の様子や野鳥の姿、動物の足跡等を観察しながら、冬の森林を散策しました。残念ながら姿は見られませんでしたでしたが、真新しいクマゲラの食痕を発見し、その大きさに驚きながら興味深く観察するとともに、豊かな自然が身近に息づいていることを実感することができました。

■スノーシューで冬の森林を散策



■クマゲラの食痕を観察



2 ひやまの環境保全活動 ～海岸や街並の環境美化～

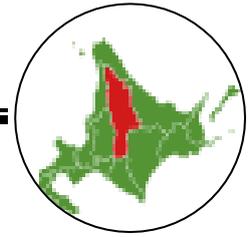
檜山管内は海や森林に囲まれた景観が美しい地域であり、管内の各町においては海岸や街並の環境保全に向けて、町内会等の住民団体、地元企業及び行政機関等との連携による環境美化活動（清掃活動）が毎年実施されております。

また、檜山振興局の調べでは、令和2年度（2020年度）の管内における環境美化活動へは、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、延べ約 1,000 名の参加があり、こうした多くの参加者の協力により地域の環境保全が支えられています。

■乙部町の清掃活動の様子



＝【上 川】＝



1 ごみ問題と向き合う時間「ふらの環境展 2020」

上川総合振興局では、ふらの市民環境会議が開催した「ふらの環境展 2020（令和2年9月10日～17日）」において、ごみ削減意識の高揚と分別及びリサイクルへの理解を深めるため、パネル展示と啓発物品の配布を行いました。啓発物品は、振興局で製作したオリジナルエコバッグのほか、3R 啓発クリアファイル、北海道認定リサイクル製品のせっけんやダストレスチョーク、不法投棄防止ポケットティッシュなどで、パネル展示では、レジ袋の有料化に伴い、プラスチックごみ削減の呼びかけや、環境に優しいミツバチの巣を原料としたミツロウを使ったキャンドルを紹介して、ごみ削減や3Rについて理解を深めました。

■ふらの環境展の展示の様子



2 省エネ体験「CoCoDe クリスマスランド」

令和2年（2020年）12月5日～12月27日に、旭川市市民活動交流センターCoCoDeにおいて「CoCoDe クリスマスランド」が開催され、地域の皆さんが地球環境について考えながら、スローな時間をすごしました。

上川総合振興局では、来場者のみなさんに地球に優しいエネルギーの利用や、3R推進の取組について理解していただくために、ミツバチの巣を原料としたミツロウを使ったキャンドル作りキットを配布して、家でエコな時間を過ごしてもらうように促しました。

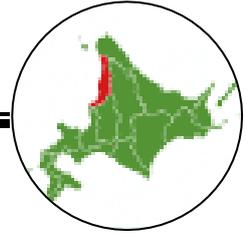
■CoCoDe クリスマスランドの展示の様子



■CoCoDe クリスマスランド手作りキット



＝ 【留 萌】



1 増毛山道再生の取組

日本海に面し断崖絶壁が続く雄冬海岸（雄冬岬）を貫く国道 231 号（増毛国道）は、昭和 56 年（1981 年）に全線開通しましたが、かつては茂津多岬、神威岬とともに西蝦夷地三險岬と呼ばれた交通の難所でした。この海岸線を迂回すべく、安政 4 年（1857 年）に江戸幕府の命を受けた増毛漁場請負人の商人 伊達林右衛門によって開削された道路が「増毛山道」です。

この山道は、その後の交通機関の発達等により、次第に利用者が減少し、昭和 16 年（1941 年）の武好駅逓^{※1}（ぶよしえきてい）の廃止以後は利用する人もほとんどなくなり、いつしかネマガリダケ（チシマザサ）の藪に埋もれてしまいました。しかし、平成 21 年（2009 年）から留萌振興局と NPO 法人増毛山道の会が協働でその再生事業に着手し、その後、地元自治体や石狩振興局など関係機関の協力を得ながら、8 年の歳月をかけ平成 28 年（2016 年）10 月、石狩市浜益区幌から増毛町別笥までの全線 28km^{※2}の復元が完了しました。

毎年開催している増毛山道の会による山道体験トレッキングでは、暑寒別天売焼尻国定公園内の豊かな自然や増毛山地の山並、日本海の眺望のほか、武好駅逓跡、当時の電信柱、橋の石積み跡、仏様の台座、遠く三河産花崗岩で造られた水準点標石等、北海道開拓を物語る多くの歴史的遺構を見ることができます。

令和 2 年度（2020 年度）は、全線復元後の増毛山道の次世代への継承を確実にするとともに、北海道内外への PR と適正な利活用を図るため、留萌振興局、石狩振興局、増毛町や石狩市、増毛山道の会の関係団体による共通の認識を定めた「増毛山道」保全活用推進方針を策定したほか、山道に関わる人材を育成するためのガイド研修やササ刈りボランティア研修、さらには増毛山道を将来に継承することを目的として、石狩市立浜益小学校の児童を対象とした山道学習会を開催しました。

(注)※1 駅逓(所)とは明治期に作られた北海道独自の制度で、宿泊・人馬継立・郵便等の業務を担った施設。

※2 増毛町岩尾までの分岐道を加えると全長約 33km。

■増毛山道とその遺構（電信柱）

■令和 2 年度浜益小学校増毛山道学習会



2 海岸清掃活動・3R 普及啓発

留萌管内は、全てのまちが海岸に面しており、その景観は「オロロンライン」と親しまれ、この海岸線の景観維持のために清掃活動を始めとする環境保全活動が活発に行われています。

清掃活動などを実施している「オロロンラインをきれいにし隊」の登録団体（NPO団体・ボランティア団体・町内会・民間企業・各種組合・学校など）では、平成24年（2012年）から、毎年、同じ日、同じ時間に留萌管内の海岸を一斉に清掃するという活動を実施しています。

また、3R（リデュース、リユース、リサイクル）や地球温暖化防止の啓発事業として、展示物がホームページ上で見られるオンラインパネル展や、地球が温暖化によって影響を受けている様子を放映した環境パネル展などを開催しました。

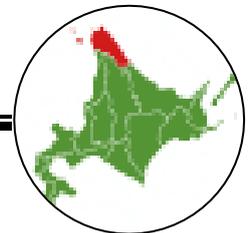
■留萌管内海岸での清掃活動の様子



■DVD を利用した環境パネル展



＝【宗 谷】＝



1 礼文島の高山植物を守るために

利尻礼文サロベツ国立公園の礼文島は、レブンアツモリソウやレブンウスユキソウをはじめとした固有の植物が生育するほか、丘陵状の地形に約300種もの高山植物群落が生育することから、花の浮島とも呼ばれています。島内には全7コース、全長約50kmにも及ぶ自然歩道があり、関係者が協力してこれらの歩道を管理しています。

宗谷総合振興局では、令和2年（2020年）10月に岬めぐりコースであるゴロタ岬周辺の歩道の浸食等が進み、周辺の植生へ影響を与えている箇所などを、地元NPO法人や自然ガイド、行政機関職員により、椰子繊維の土嚢を使用して補修を行いました。

また、7月には、関係機関等と連携しながら「高山植物盗掘防止キャンペーン」を実施し、礼文島を訪れた観光客に対し、リーフレットの配布など行うほか、盗掘監視パトロールを実施しました。

今後も、礼文島の自然を守りながら、持続的な利用ができるよう官民協働による取組を進めていきます。

■歩道補修の様子



2 宗谷クリーンアップ運動

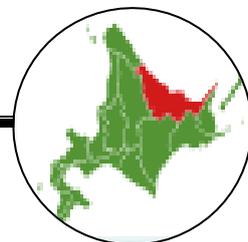
宗谷総合振興局では、北海道洞爺湖サミット開催（平成20年（2008年）7月）を契機として高まった道民の環境保全意識の持続を目的とした全道的な普及啓発活動の一環として、平成21年度（2009年度）から「宗谷クリーンアップ運動」を展開しており、管内各地の清掃活動への参加のほか、6月の環境月間におけるパネル展の実施や「宗谷クリーンアップサポーター宣言」の参加団体の募集を行っています。

令和2年度（2020年度）は、2箇所の清掃活動に参加し、サポーター団体数は令和3年（2021年）3月末現在で61団体となっています。

■稚内市における清掃活動の様子



— 【オホーツク】



1 3Rなどの普及啓発活動

オホーツク総合振興局では、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の啓発活動として、イベントの開催を行っており、令和2年度（2020年度）は、網走市において、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で、網走消費者協会と連携した3R推進のイベントを開催しました。イベントでは、ポスター掲示のほか、北海道認定リサイクル製品の展示、段ボール模型の工作体験、来場者の各家庭の取組の紹介などを行い、約50名の参加がありました。

このほか、新たな取組として、網走市市民環境部生活環境課及び公益社団法人北海道産業資源循環協会オホーツク支部と連携し、能取湖周辺の不法投棄パトロールとごみ拾いを実施し、廃棄物50kgを回収するとともに、新聞等のメディアを通じて啓発を行いました。

■工作体験の様子



■感染予防対策の実施



■ごみ拾いの様子



2 オホーツク動物愛護週間イベント

9月の動物愛護週間に、オホーツク総合振興局庁舎内において、動物愛護についてのパネル・ポスター展を開催しました。

令和2年度の動物愛護週間のテーマである「人も動物も幸せに～考えよう、共にくらす社会～」に関するパネル・ポスターを展示し、その他にも狂犬病予防や新型コロナウイルスへの対応の注意喚起（ペットの飼い主向け）に関するパネルやポスターを展示しました。

例年実施している獣医師会や動物愛護推進員、ボランティアの方々と協働で実施している講演会や体験コーナーなどのイベントは、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、実施を見送りました。

■ポスターやリーフレット設置



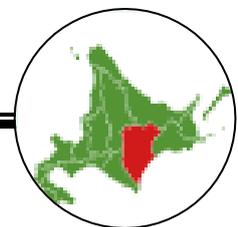
■動物愛護パネル・ポスター展示



■のぼり設置



＝【十 勝】＝



1 地球温暖化防止対策イベント「ガイアナイト」の実施

「北海道クールアース・デイ」の取組の一環として、帯広市及び帯広市図書館の協力のもと同図書館及び北海道立帯広美術館において啓発チラシを同封したキャンドルセットを配布し、地域の皆様が各自、自宅でキャンドルを灯すことで、地球環境に思いをめぐらせる機会につなげる取組を行いました。

2 アライグマ被害対策講習会

平成30年から実施している独自事業「アライグマバスターズプロジェクト」の捕獲講習会を令和3年（2021年）3月2日に大樹町で実施しました。

10名の町民が参加し、講師からアライグマ専用箱わなの効果的な使用方法について受講し、町のアライグマ防除従事者として登録されました。

■アライグマ捕獲講習会



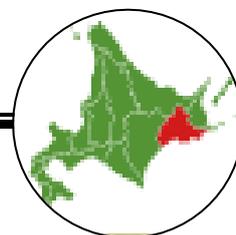
3 エゾシカ肉ジビエレシピ集

十勝管内のシェフが「エゾシカ肉」の美味しさをPRするため、「ジビエレシピコレクション」と題した小冊子を作成し、シェフ自慢のエゾシカ肉レシピが掲載されたコレクションを、管内のレストランや道の駅で配布しました。

■出来上がったエゾシカ肉料理



= 【釧 路】



1 タンチョウ越冬分布調査

タンチョウ越冬分布調査は、北海道が環境省の委託を受け、関係機関（市町村、教育委員会、釧路市動物園など）の協力を得て、毎年12月と1月の2回行っています。平成29年度（2017年度）からは、北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社（JAL）が参加し、令和元年度（2019年度）には、初めて釧路市以外の小学校が参加するなど、調査者が増え、きめ細やかな調査が可能となりました。



この調査は、タンチョウの保護増殖を図る上での重要なデータとなるだけでなく、小・中学校の児童生徒の環境教育や関係機関の相互連携の推進などにも役立っています。

令和2年度（2020年度）は、12月に9振興局で実施し、1,097羽（うち釧路管内864羽）、1月は8振興局で1,516羽（うち釧路管内1,392羽）が確認されました。

2 環境月間パネル展及び地球温暖化防止パネル展における環境啓発の実施

「環境月間パネル展」及び「地球温暖化防止パネル展」は、地域の人々の環境に対する認識の醸成を図り、自発的な環境配慮行動の促進を図ることを目的とした釧路市が主催のイベントで、環境問題への理解が深まるパネルが多数展示され、環境への思いを共有できる場となっています。

令和2年度（2020年度）は、6月の環境月間に「環境月間パネル展」が、12月の地球温暖化防止月間に「地球温暖化防止パネル展」が、それぞれ釧路市の3カ所の公共施設で1週間ずつ（各パネル展計3週間ずつ）開催され、釧路総合振興局では、地球温暖化の緩和と適応をテーマにパネルを展示したほか、省エネの促進のため啓発グッズの配布などを行いました。

■パネル展の様子



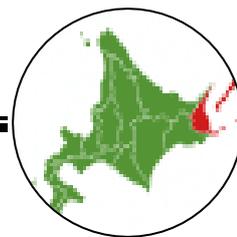
3 不法投棄防止に向けた街頭啓発の実施

釧路総合振興局では、10月の廃棄物適正処理推進月間に合わせ、令和2年（2020年）10月27日、イオン釧路店において、釧路町及び公益社団法人北海道産業資源循環協会道東支部と合同で不法投棄防止に向けた啓発活動を行いました。「不法投棄は地球を汚すレッドカード」と訴えかけるのぼりを掲げ、ティッシュ・軍手・エコバッグなどを配布し、不法投棄が犯罪であることを呼びかけました。

■街頭啓発の様子



＝【根 室】



1 世界自然遺産・知床の日

知床がユネスコの世界自然遺産に登録された、平成 17 年（2005 年）から 10 年後の平成 28 年（2016 年）3 月に、改めて知床の価値を見つめ直し、私たち北海道の大切な財産を未来の世代へつなげることを目的として、知床の保全や適正な利用を推進するための北海道知床世界自然遺産条例が制定されました。

この条例は、知床世界自然遺産の保全等の推進に当たって、「関係行政機関・団体と道民や来訪者、事業者との協働」や「世界自然遺産としての顕著な普遍的価値に対する道民等の理解の増進」が必要であり、「道は、そのために必要な措置を講ずるもの」と規定されています。

また、知床が世界遺産であることはよく知られるようになりましたが、知床の価値についてはあまり知られていないことから、知床について考える契機とするため「知床の日」を制定しました。

「知床の日」を 1 月 30 日としたのは、知床は、多くの生態系に恵みをもたらす流水が北半球において接岸する南限であり、知床が世界自然遺産になった平成 17 年（2005 年）に、知床に流水が接岸した最初の日が 1 月 30 日であったことから、道では、知床の豊かな生態系を支える出発点として重要な意味を持つ「流水」にちなみ、知床における流水接岸初日を「知床の日」としました。

根室振興局では、1 月 30 日の「世界自然遺産・知床の日」について、道民に広く浸透させるため、令和 2 年度（2020 年度）は令和 3 年（2021 年）1 月 28 日と 29 日に、振興局の道民ホールにおいてパネル展を実施し、「世界自然遺産・知床の日」の啓発活動を行いました。

■パネル展の様子



2 根室地域産エゾシカ肉の有効活用促進事業における料理動画の配信

根室振興局では、根室管内で捕獲されるエゾシカの肉を有効活用することを目的として協議会を設立し、平成30年度（2018年度）から、根室産エゾシカ肉の知名度向上や管内の流通促進、提供店舗の増加、共有素材の検討などについての協議を行っています。

令和2年度（2020年度）は、エゾシカ肉（根室ディア）を使用した料理の実演を撮影して、北海道庁インターネット放送局「Hokkai・Do・画」で動画を公開したほか、エゾシカ肉の提供店舗のPR活動などを行いました。

■料理動画の画像

